別紙2

平成12年度内分泌攪乱化学物質に係る環境実態調査結果[注1)]の概要

媒体種類	測定数		検出物質数	本調査の最大値が環境省の過去調査[注4)]の最大値を超えていた物質数 （　）内の分母は過去の調査データのある物質数
	地点数(延べ)	物質数		
水質[注2)]	271	31	21	２物質　（２／31）
底質[注2)]	108	31	19	２物質　（２／31）
水生生物[注2)]	16	11	3	１物質　（１／11）
野生生物[注3)]	175（検体）	26	21	４物質　（４／12）
合計	570	42	37	９物質　（９／39）

注１）本調査は平成10年度より実施している。
注２）対象化学物質については、平成10年度及び平成12年度は農薬を対象としているが、平成11年度は対象としていない。
注３）野生生物のみダイオキシンを対象化学物質としており、他の媒体はダイオキシンは対象外である。
注４）「内分泌攪乱化学物質に係る環境実態調査（平成10年、平成11年度）」
「化学物質と環境（昭和50年～平成12年度）」